



2011年9月 念祷と祭儀 (Celebration)

主は新しい戦法を選ばれた !

2011年9月12日：特別の祝日：マリアの御名の祝日

1. 見る。

生涯の出来事 (Fait) : ララン神父のマリア会の起源についての証言 (1817年春、ボルドー)

「ララン師は、ある日、一番早くやって来て創立者に、自分はコングレガシオンの指導者と同様の仕事とかコングレガシオンと類似している生活様式に召されているように感じていますと申し上げた。この申し出に、シャミナード師は感動して涙ぐみながらララン師に歓声をあげた。そうです、以前からずっとわたしはこの時を待ち望んでいました。神の御旨が示され、30年前から私が追い求めていた計画を実行に移す時が終に到来しました。神は称えられますようにと喜んだ。それから、シャミナード師はララン師に、自分の考えていた事について説明された。

「修道生活、それはキリスト教と関わっており、キリスト教は人類と関わっている。同様に、修道生活は教会の中で不滅のものであり、教会も世界の中で不滅のものなのです。修道者なしに、福音は人間社会のいずこにも、徹底した適応を計ることはできないでしょう。ですから、福音的勧告の実践を人間に可能にしてくれる修道会 (institutions) が存在しなければ、キリスト教を再生させようと強く望んでも空しいことです。ただし、そうは言っても、今は困難であるのは間違いありません。フランス革命以前にあった修道生活と同じ形態で再生させようと望んでも今はタイミングが良くありません。以前の修道生活の形態は、古臭いものとなったとシャミナード師は付け加えました。数知れないスキャンダルが修道生活の信用を失墜させました。いかなる生活形態も、修道生活には本質的なものではありません。

世俗的な外見をしていても修道者であり得ます。意地悪な人達は、そのことで気分を害することは少ない。彼等には世俗的な外見を妨害することの方がもっと難しいのです。この件に関しては世間も教会ももっと教化されることでしょう。そんなわけで、三つの修道誓願による修道会、しかも、神は新たな戦法を選ばれた (Nova bella elegit Dominus. 士師記5. 8) ことに可能な限りふさわしく、名称とか慣習とか市民生活の形態にもこだわらない修道会を造ろうではありませんか。そして、総てを汚れなきマリアの保護のもとに置いて生活しましょう。神の子イエスは地獄に対する最後の勝利を彼女に留保しておられるからです。そして、『彼女 (=マリア) はお前 (=蛇) の頭を砕く』のです (Et ipsa conteret caput tuum. 創世記3. 15)。シャミナード師は、『わが子よ、私たちは謙遜と、大いなる喜びを持って、婦人の踵になろうではありませんか』と言われた。」(ジャン・バプティスト・ララン司祭。マリア会についての歴史帳、ボルドー。

1858年。6～7頁、ECRITS ET PAROLES V、17-7、347～348頁参照)

2. 判断する

(1). シャミナード師は、「自分の考えについての説明」を旧約聖書の中から、その拠り所として二箇所引用しています。師にとってそれは重要でしばしばそこに話を戻しています。最初の引用はマリアニスト達に標語として取られたものです：**主は新しい戦法を選ばれた！** 起草する手法から見ての第一の見解は、この「新しい戦法」という表現には、単純に、キリスト教並びに修道生活を、「新しい」文化的状況に適応させようとする戦術であると考えられることもできます。ですから、「世俗的な外見」のもとに、「名称もなく、決められた服装もなく、市民生活もしない」新たな修道生活の在り方を問題としているのではないかとの考えです。もしそのように理解するなら、それはシャミナード師のカリスマを極めて貧相な形に縮小してしまうことになるかもしれません。「NOVA BELLA ELEGIT DOMINUS」という言葉の引用、それは、はっきり言って、並はずれた預言的な重みを持つパラグラフ（段落）を開くことなのです。つまり、「婦人」である「汚れなき聖マリア」が、「神の子」を宿すという終末的な計画を、大いなる信仰告白の対象としているパラグラフを開示することなのです。これこそが、シャミナード師が「新しい」状況に「対峙しよう」とされた福音的な新しさなのではないのでしょうか。

(2). 「**主はあたらしい戦法を選ばれた！**」という言葉の引用は、ウルガタ訳聖書（ラテン語訳）の士師記5章8節からのもので、イスラエルにおいて、士師であり母でもあったデボラの歌の一節なのです。彼女は神の偉大な業を歌い、もう一人の婦人ヤエルの活動をほめ称えています。イスラエルを防衛する軍隊長がいない時は、女性が頭角を現したのです。主なる神はこのデボラを通してイスラエルに勝利をもたらそうとなさいます。ウルガタ訳聖書の訳者はその勝利に、「**主は新しい戦法を選ばれた**」という信仰告白の注釈を加えたのです。

人々の救いにおける婦人たちの重要な役割

士師の時代には、女預言者デボラはさらにもっと重要な働きをします。軍隊長に任命された後、彼女は兵士達を集結させ戦闘を開始します。そして彼女も戦場に姿を現し、もう一人の婦人ヤエルが敵の隊長を殺害するであろうことを予告しながら、イスラエルの軍隊の勝利を断言します。そのうえ、この大勝利を祝賀するために、デボラは、ヤエルの活躍を称えるすぐれた賛歌を歌い始めます。「女たちの中で最も祝福されるのは、カイン人へベルの妻ヤエル。天幕にいる女たちの中で最も祝福されるのは彼女」（士師記5. 24）であると。聖マリアの御訪問の日に、エリザベトが彼女に述べられた賛美の言葉、「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています」（ルカ1. 42）との賛美は、新約聖書におけるデボラのヤエルへの賛美の木霊なのです。（ヨハネ・パウロ2世教皇、人々の救いに関わる女性たち 1996年3月27日一般謁見でのマリアについての説教）。

(3). シャミナード師はデボラとその賛歌は、おとめマリアの象徴であり、アヴェ、マリアの賛歌はそこに由来していることを承知していたのです。この章節の伝承は信仰の呼びかけであることも承知しておられた。ララン師とのカリスマ的な出会いがあった年に、シャミナード師はマリア会設立の黙想の念祷の題材に、信仰についてのテーマと共に、「**主は新しい戦法を選ばれた**」と言う標語を当てました。

「**主は新しい戦法を選ばれた**」信仰の武器は世間に対しては非常に弱いものであると考える人々もいるかも知れません。その理由は、世間には神の敵どもは数多くいるし、しかもパワーもあるからです。神は人間どものようには戦闘をなさらないことを認識していただきたいのです。主はその敵どもに対して最も弱いと思える手段を用いて勝利することを好まれます。また権力のすべての体制の誇示に対峙する時は、最も非力で、最も取るに足りない手段を用いて勝利することを好まれます。私たちは神の民の勝利がその事実を予め表わしていたように、教会の勝利の中でもそれを見えています。私たちも、どうぞ神の栄光のために同様の武器で、勇気と信頼を持って世との戦いに挺身することができますように。(1818年の黙想。ララン師のノート、EP V, 24, 67-70, 480頁。コリノー修道士のノートも参照、EP V, 25, 24-25, 480頁)

シャミナード師にとって「**新しい戦い**」(或いは**新しい戦法?**)は、いつの時代においても、信仰のために勇気をもって挺身する最も取るに足りない、しかも見た目には最も非力な僕たちに任せている戦いなのです。そして汚れなきマリアは信仰におけるこの契約のしるしなのです。聖マリアと団結する者は誰でも彼女の保護のもとに身を置きます。カリスマ的な直観を持つシャミナード師のこの信念は、コングレガシオンの指導者としての役割を果たす時にも、また修道会の創立者としての役割の中でも表明されています。ジャンーバプティスト、ララン師のこれらの証言は修道者たちにも、信徒たちにも同様に語られているのです。

3. 行動する

マリアニストとしての自分の心情 (Coeur) を究明しなさい。そしてあなたの信仰はどのように「**新たになっているか**」を省察しなさい。あなたは今、どんな戦いの中に巻き込まれているかを見極めなさい。汚れなきマリアが、今日も、あなたご自身と、あなたの共同体を見守ってくださっていることをどのように理解していますか。

祈り

装飾：中央に十字架を、デボラが正義を貫いている場所を象徴するために奥には棕櫚みたいな植木鉢を置く。床には聖母マリアの画像がある。周囲には、聖人聖女の画像を置く。それらの中には、言うまでもなく、アデルやマリーテレーズの画像も。シャミナード師の画像は、側面からこの光景を眺めている。

音楽：マリアとイエスを讃える聖歌。

- (1) **神の言葉。**士師記4章と5章のデボラの歴史と賛歌。旧約聖書、士師記の5章8節では「**主は新しい戦法を選ばれた。Nova bella elegit Dominus**」という聖句を見出せないでしょう。そのわけは、すでに説明したように、この聖句はウルガタ訳聖書に書き加えられた注釈だからです。然しながら、デボラの賛歌にふさわしい表題です。勿論、テキストは必要とされるあらゆる慎重さを以って読まれなければなりません。即ち、テキストを浄化し、過激なすべての解釈を削除し、福音の光に照らしながら読まなければなりません。士師記に出てくる二人の女性をシャミナード師は、心の清いそして汚れを知らない無垢な女性のシンボルとして考察しておられます。なぜなら、それは悪に打ち勝った信仰の人聖マリアを象っているからです。
- (2) **あなたは女の中で祝福された方です**！この言葉は聖霊に満たされたエリザベトが聖母マリアに述べた祝詞の最初の部分ですが、この言葉はデボラの賛歌を思い出させます。勇敢な婦人たちを思い起こし、そして信仰の道で出会う人々を保護して下さるように祈りなさい。そして聖母マリアと一緒に彼らを称えなさい。もしもあなた方の祈りがグループで行われるならば、それぞれの祈願の後で、あなた方は感謝の祈り (Benediction) をよく歌えるのではないのでしょうか。それからサマリアでのように、今日イエスがお出でになられて、「わたしに水を飲ませて下さい」と他の婦人たちにもおしゃってくださるようお願いすることもできるのではないのでしょうか。
- (3) **ご胎内の御子イエスも祝福されています**！エリザベトのこの祝詞はマリアニストにとってセンス豊かな標語と言われているように、**マリアによってイエスへの道**なのです。もしも聖母マリアが出発点であるのなら、終点はイエスであることは明らかなことです。信仰の勝利のために、無原罪であるお方を選ばれた神の子イエスは、賛美されますように。それで今は、イエスの十字架に焦点を合わせましょう。個人或はグループで、人類の救いのために聖母マリアの子となられた神の子イエスへの賛美の連祷を作成してみましよう。

(エミリオ・カルデナス司祭：ポーランドのマリア会員)